中国文字改革の初歩的成果

伊　井　健一郎

10月1日の建国の前夜1949年8月25日，呉玉章[1]は，文字改革にいかに着手すべきかについて手紙を書き，毛澤東主席に指示をあおいだ。毛澤東はそこで手紙を書き，郭沫若，茅盾(Máo Dùn)，馬叙倫(Mǎ Xùlún)に審議させた。郭沫若等は28日，書面意見を書き毛澤東に送り，そしてそれは29日呉玉章に送られた。手紙では，検討して意見を出すよう要望されていた。毛澤東を通じ，呉玉章に送られた郭沫若等の意見は，次のような内容だった[2]。

①音標文字の道を歩むこと，主としてラテン字母を用いて中国の音標文字とする。
方言のラテン化には賛成せず「国語」（普通話）の普及を主張する。
漢字の整理と簡略化を進める。

②専門の文字改革機構を樹立する。

ここにはすでに，1958年1月の政治協商会議全国委員会における周恩来総理の報告『当面の文字改革の任務』[3]の骨子が表現されていた。つまりそれは，漢字の簡略化，共通語（普通話）の普及，漢語拼音（ピンイン）方案の制定と施行の三項目だった。そして運動を推進する専門機構の設置がうたわれたのは，これもまた当然のことであった。

1949年9月，上海では新文字工作者協会が成立し，倪海曙が中心であった。40年の「新民主主義論」でつとに，毛澤東は文字改革の必要性を述べたが，果してそれはたえず引継がれ，発展してきた。10月1日，中華人民共和国の

注1）1878～1966。中国人民大学出版社が1978年『文字改革文集』を出版した。
2）「光明日報」1978.7.15。
3）『当前文字改革的任務』，人民出版社，1958年。

成立が北京でなされ，文字改革の運動は新たな飛躍をする条件が与えられた。10月10日，中国文字改革協会が成立した（主席＝呉玉章）。それは初め文字改革協進会として，よりより準備されてきたものである。

Ⅰ．改革協会・改革研究委員会

1950年５月，政務院文化教育委員会により，「学術名詞統一工作委員会」が設立され，６月，中国科学院語言研究所が設置された。教育部は，毛澤東の指示により，常用語の制定と漢字簡略化の問題にとりくみ，中国文字改革研究委員会の組織化を提起した。51年３月，北京で中華全国エスペランチスト協会が成立，「国語運動家・研究者の組織は，51年５月文字改革研究委員会準備会として発足し，52年２月政務院・文化教育委員会所属の文字改革研究委員会となり，54年12月には国務院直属の文字改革委員会となった」[4]。中央政府によって，専門の文字改革機構の命名がなされ，機構が設置されたのは，有史以来初めてのことであった。

建国後10日目にして，北京で，中国文字改革協会が成立した。発会式に当り，呉玉章は「今のところ大規模な文字改革を実行するには，客観主観の条件が成熟していない……偉大な事業の目的は，必ずその条件の成熟した時に実現するにちがいない」と述べた。そして協会が当面行うべき主な仕事をあげた[5]。

(1)漢字の改革を研究する。ラテン字母の綴りかたの方案を採用することが研究の主要目標であるが，漢字の整理と簡易化も研究目標の一つである。

(2)漢語および漢語統一の問題を研究する。それには漢語の総合研究と区を分けた調査研究とを継続し，あわせて北方語を統一漢語の基礎とすることを研究する。

(3)系統的に少数民族の言語を研究し，すすんでその文字の改革と創造とに

4）斎藤秋男『中国現代教育史』，国土社，1962年，224ページ。
5）倉石武四郎『漢字の運命』，岩波書店，1952年，124ページ。

ついて研究し，彼等の語文教育の発展を助ける。
(4)政府と協同して可能な実験を進める。
(5)文字改革の宣伝を継続し，多数の知識分子と人民とに文字改革の必要性を認識させる。

大会ではまた，徐特立，黎錦熙，羅常培，陸志韋(Lù Zhìwéi) などが漢字改革の必要性を説いた。そして78人の理事が選ばれた。また協会の業務は，次のように分担されていた[6)]。

○方案研究委員会（主任―呉玉章，副主任―黎錦熙，胡喬木 Hú Qiáomù）
○地方語文研究委員会（主任―羅常培）
○漢字整理研究委員会（主任―黎錦熙）

さらに20日には，第１回の理事会が開かれ，常務理事を25人選出した。北方語ラテン化新文字を原案として，音標文字を研究するとともに，漢字の簡略化と音標化を促すことを申し合わせた。解放後１年来，新文字運動は60の地方または部隊にわたり[7)]，香港や日本でも行われた。1951年４月14日付の「新文字週刊」第六十六期によると，各地で別々に発展しているという。北京からは横組みによる「学文化」が，上海からは「文化学習」が発行され，労働者・農民の語文学習を助けた。少数民族のためのラテン化も彝(yí) 族を初めとして正式に進められた。

かつて国語ローマ字が作られた頃，それはいつ一般に使われるようになるのか，という質問に対し，黎錦熙は500年以後だ，と答えたという。彼は，「スターリンの『言語学におけるマルクス主義』の中国文字改革運動における問題を論ず[8)]」で，漢字のことを次のように称した。中国における「漢字の運命はまさにこの二行に要約される」とそれを引用したのは，倉石先生である。

終於必廃而不能久存
暫時必存而不可遽廃

6）斎藤秋男『新中国の教育建設』，新教育事業協会，1950年，82ページ。
7）「光明日報」1950.8.13。
8）倉石，前掲書，169ページ。
「光明日報」1950.11.5。

（いつかは止まるものでいつまでも残せない
しばらくはぜひ残しておきすぐには止めない）　　（直訳）

II．音標文字への道

1951年，毛澤東主席は次のような指示を出している[9]。「文字は改革しなければならず，世界共通の音標文字の方向に進まなければならない。」

郭沫若は52年，外国へ出かけた時に空港で，外国の作家がタイプを打っている情況を見て，我々も早く音標文字を採用したらよいな，と語った。「字母のタイプライターは，ラテン字母であれ，日本の仮名であれ，数十の字母と必要な字母がいるだけだ……」（「日本の漢字改革と文字機械化」）。「総じて，我々の四つの現代化をくり上げて実現するために，……六億五千万の中国人民と今後の世世代代の子孫がすみやかに仕事の能率と文化水準を上げるため，漢字を逐時改革することは，無視できないカギとなる問題である。」[10]

1952年２月５日，政務院文化教育委員会の主任だった郭沫若は，中国文字改革研究委員会の成立大会の講話でこう述べている：中国の文字が音標化の方向に向かうこと，それは各方面にとって便利である……毛主席はこれを非常に重視している[11]。そして彼は文字を左側から横書きにすることを提唱した。（これは55年元旦，「光明日報」が採用してから，11月までに中央クラスの17種の新聞のうち13種が横組みになった。）56年元旦の「人民日報」と各地の新聞は，一律に横組みを採用した。これは建国後の漢字改革の第一の段どりであり，「漢字簡化方案」，「漢語拼音方案」を公布するための前奏曲でもあった。

9）「光明日報」1976.12.31 湖南第一師範学校革命委員会「緬懐救星，努力奮斗」
馬叙倫「中国文字改革研究委員会成立大会開会辞」，『中国語文』1952年７号，4ページ。
『北京周報』1978年１号は，拼音化を「音標文字」とし，『人民中国』1977年増刊号は，「表音文字」と訳している。

10）「人民日報」1964．5．3。

11）「光明日報」1978．7．15。

このように中国の文字改革は，世界の文字に共通の方向へ歩を早めていった。英国のイングランド，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドの4地区間では，発音が一つでないのみか，方言や成語にも相当の差異がある。しかし彼らは，同一の文字＝英語を使っている。ラテン化のもつ長所は多い。早く文化をマスターできるし，印刷・タイプ・電信も簡略化できる。字を書く人とりわけ科学，文学関係者の成果は，何倍にも上るであろう。「文字改革については，思想の解放をしなくてはならない。中文ラテン化の役割は，はかり知れないものがある。問題は決意にある。」[12]しかし真の問題は，ただその時がきたかどうかである。

Ⅲ．文字改革委員会の成立

1951年5月，中央人民政府は，文化教育委員会の下に文字改革研究委員会を設立する旨決定し，その準備会ができた（主任―馬叙倫）。北京の文字改革工作者は，北方語ラテン化新文字について，修正意見を発表した。6月には「人民日報」が「祖国の言語を正しく使い，言語の純潔と健康のために戦おう」と題する社説[13]を発表，呂叔湘(Lǚ Shūxiāng)，朱徳熙(Zhū Déxī) による「語法修辞講話」が12月15日まで連載された。9月には中央人民出版総署が「標点符号用法」を公布，10月には少数民族語言文字研究指導委員会が設立されている。

52年2月に成立した文字改革研究委員会は，馬叙倫，呉玉章ら14名で組織され，民族形式の音標文字を文字改革の方向とすることを決めた。6月教育部は，“常用字表”（1,500字，補充字500字，計2,000字）を公布した。そして7月には，同研究委員会と科学院語言研究所による『中国語文』が中国語文雑誌社から創刊された。53年には，学術訳名問題座談会（7月），少数民族語文研究工作拡大会議（9月）が開かれ，『中国語文』誌上では，漢語詞

12)「光明日報」1978.7.30，沙博理「関於文字改革拉丁化問題的我見」
13)「人民日報」1951.6.6。

類問題の討論が始められた（10月）。そして『新華字典』が出版された。

54年になると，３月に「光明日報」の副刊として“文字改革”（隔週刊）がが創刊され，58年12月20日まで続いた。９月に第一期全国人民代表大会第一次会議が開かれ，10月の全人代常務委員会第二次会議において，国務院総理の要請で，同研究委員会を国務院直属の委員会に改組することが批准された。

11月に国務院は，主任，副主任，常務委員を任命して，設立の準備を進めた（主任＝呉玉章，副主任＝胡愈之 Hú Yùzhī）。かくして12月，正式に成立した中国文字改革委員会は，第一次全体会議を開いた。この運動はここから「新たな発展段階」[14] へと突入した。

ところで文字改革委員会（以下委員会と略す）は，どんな仕事をしたのか？

１．漢字の簡略化と整理

漢字は表意文字であり，一定の欠点がある。それは数が厖大で，構造が複雑なことである。表音文字を実行している国と比べると，学制は，２年程余分に必要だといわれる。筆記，印刷，電報等でも，それは表音文字より人力，物力を必要とする。簡略化の方針は，大衆が創造し，大衆が使いなれた字を採用し，大衆の使いなれた簡略化の方法を運用することである。同音代替，草書の楷書化，筆画の減少など。

55年１月，委員会は「漢字簡化方案（草案）」（798字）[15] を発表し，広く意見を求めた。全国の討論を経て，「大きな修正を行った」。そして簡体字公布の段どりは，一群が成熟したら，一群を推行する（成熟一批，推行一批）[16] という方法をとった。55年10月，委員会と文化部は，「第一批異体字整理表」を発布し，56年に国務院は“漢字簡化方案[17]”を正式に公布した。

２．共通語の普及

55年の全国文字改革会議と現代漢語規範問題学術会議は，漢民族の共通語――普通話を確定した。56年２月，中央推廣普通話工作委員会が成立し，

14)「光明日報」1978．6．2。
15)『中国語文』1955年１号。
16)「光明日報」1978．6．2。
17)『中国語文』1956年２号。

主任を陳毅(Chén Yì)，副主任を呉玉章として，周総理の直接の指導の下で「関於推廣普通話的指示」が出された。“大力提唱，重点推行，逐歩普及”（大いに提唱し，重点的に行い，逐次普及する）の方針で，まず小中学の語文課と各級師範学校で教育が行われた。教育部と科学院語言研究所は共同で，普通話語言訓練班を開き，1964年までに，北京・上海・青島・西安などで4回，全国普通話教学成績観摩会（コンクール）を開いている。

3．漢語拼音方案の制定と施行

どの字母を採用するかの問題では，初め意見が分れて紛糾した。委員会に寄せられた表音方案の数は，600をこえるとも1,200以上あった[18]とも伝えられている。結局は，毛澤東と党中央の指示にもとづいて，ラテン文字が採用された。

56年1月，中央の開いた知識人の会議で，呉玉章は文字改革問題で発言し，毛澤東はまた呉玉章の提唱に賛成し，次のように述べている[19]：この種の字母は，少なくてわずか二十いくつだ。一方向に向かって書き，簡単明瞭だ。われわれの漢字は，実にこの面で比べものにならないし，漢字がそんなによいと考えてはいけない。態度と方法が正しいのであれば，外国のよいものを学ぶことは，自らにとって大いに有益である。

Ⅳ．漢字簡化方案の公布

半世紀以上にわたった漢字を改良する簡略化の運動には，三つの要求がかかげられてきた。つまり筆画をへらすこと，字数を制限してへらすことおよび表音の機能を改善することであった。その中でも漢字の筆画をへらす簡体字運動が漢字改革運動全体の主流をなしていた。

1．時期区分にふれて

18）上野恵司「文字改革のあゆみ」，中国研究所『中国研究月報』1978.10（No. 368）。
19）「光明日報」1978．6．2。

建国前の文字改革運動の全般的概況は，「前史」[20] にてすでに述べた。簡体字運動は，とりわけ現実的課題をかかえている。歴史については触れない。ただその時期区分を参考までに紹介する。

杜子勁 (Dù Zǐjìn) は『簡体字』(1935) のなかで，その運動を三期に分ける：

a．提議期　1908～27

b．研究期　　28～32

c．公布期　　33～35

周有光氏は，解放後までも含めて，四期に分けている[21]：

第一期　1909～22　「教育雑誌」創刊号で簡体字の主張を提起してから「国語月刊」漢字改革号の出版まで

第二期　1923～36　漢字改革号の出版から手頭字（常用字）の発表・使用まで

第三期　1937～55　国民党が簡体字表を取り消してから，解放後の「漢字簡化方案」公布以前まで

第四期　1956～　　「漢字簡化方案」公布以後

以前に指摘したとおり，第三期は49年9月までとし，49年10月以降55年までを第四期とすべきであろう。そして56年以降77年までを第五期とする（この第五期は，「文化大革命」前後の小区分は必要であろう)。78年以降今日までを第六期といえる。

旧中国の国民党治下において，解放区において，それぞれ簡体字の運動は発展していた。銭玄同等が編さんした「第一批簡体字表」(324字) は，35年8月に公布されたが，36年2月には禁止令が出され，運動は困難に直面した。一方，解放区における“解放字”は，全国の解放にともない，各地へ流行していった。

簡体字運動は，大衆の自発的推進により，党と人民政府の指導をうけて，組織的に整理されていった。56年に生まれた「漢字簡化方案」(以下方案と略

20) 拙稿「中国の文字改革前史」,『徳山大学論叢』第23号，1985．6。

21) 周有光『漢字改革概論』，澳門爾雅社，1978年，326ページ。

称）は，長期にわたって広範な大衆が渇望していた漢字簡略化の願いがまずはかなえられたというものであった。

2．二つの会議

1955年1月，委員会は「方案（草案）」を発表し，呉玉章主任は，国務院全体会議で「関於漢字整理問題」と題して報告を行った。そして3月には，政治協商会議全国委員会で「関於漢字簡化問題」の報告を行った。

55年10月，全国文字改革会議（10.15～26）と現代漢語規範問題学術会議（10.26～31）が開かれた。前者は教育部と委員会が共催し，後者は中国科学院哲学社会科学部の主催であった。会議には，言語学者だけでなく，行政機関，軍隊，人民団体の代表，作家，ジャーナリスト，教師，教科書編集者，印刷専門家なども参加して，討論がなされた。

二つの会議で決まったことは，大きく分けて漢字の簡略化と北京語を基礎とする共通語（普通話）の確認・普及だといえよう。全国文字改革会議では，呉玉章委員会主任，張奚若(Zhāng Xīruò)教育部長，葉恭綽(Yè Gōngchuò)委員会常任委員らが報告して，「漢字簡化方案の修正草案」を修正補充して採択している。決議された八項目は次のとおりである[22]：

a）委員会が修正後の「漢字簡化方案」を国務院に提出，審査公布して実行するよう提案する。

b）各新聞・雑誌や文化教育機関が簡略化された漢字を広く宣伝し，各級学校で使用し，出版・印刷機関がただちに活字母型の改鋳に着手し，迅速に簡体字を採用し，それとともに出版物から異体字をとり除くよう要求する。

c）委員会が漢字の簡略化，異体字の整理の仕事を続け，また大衆から広く意見を求め，一日も早く完成するよう要求する。

d）教育部がまず全国各地の小中学，各級師範学校に対し指示を出し，普通話を大いにひろめ，また各地の教育行政部門が計画的に班を分けて，

22)「文字改革の新段階と標準語の制定」，中国研究所『アジア経済旬報』1955年12月中旬号（No. 272)。

各級学校の国語科教師を訓練して，普通話を学ばせるよう提案する。部隊で普通話をおし進める方法については，解放軍総政治部で決定するよう提案する。

e）各省市に普通話をひろめる工作委員会を設立し，社会的な力とくに放送局と文化館，カルチャーセンターを組織して，普通話の学習と使用を大いに提唱するよう提案する。

f）科学院と関係の大学・高専が協力して，全国方言の調査を進め，普通話の教材と参考書を編さんし，各方言区人民の学習に便宜を与えるよう提案する。

g）文化部と関係部門がよりいっそう新聞，雑誌，図書の横組みをするよう提案する。国家機関，部隊，学校，人民団体が公文書の横組み，横書きをするよう提案する。

h）委員会が一日も早く漢語の表音文字方案（草案）を制定し，全国各界の人々の討論と試用に供するよう提案する。

3．周恩来の報告前後

1956年1月，「漢字簡化方案」は国務院全体会議第二十三次会議を通過，公布された。科学院に普通話審音委員会が設けられ，2月には国務院より共通語の推進についての「指示」が発布された。委員会はまた「漢語拼音方案（草案）」を発表した。8月には『拼音』（57年8月『文字改革』と改名）が創刊された。

57年10月，「第一批普通話異読詞審音表」が発表され（「中国語文」，第二批は59.7.22），11月「漢語拼音方案（草案）」は，国務院全体会議第六十次会議を通過した。そして12月11日，「人民日報」で「当前文字改革的任務和漢語拼音方案」と題する社説が発表された。

1958年1月10日，周恩来総理は，政治協商会議全国委員会で歴史的な報告[23)]

23）報告では，三項目の任務が説明されており，特に漢語拼音方案の用途，効用について，次のように述べている。

a．漢字の音を標記して漢字を覚えやすくする。

（次頁脚注へ続く）

を行い，呉玉章主任が2月3日，全国人民代表大会で「関於当前文字改革工作和漢語拼音方案」の報告を行った。2月11日，第一期全人代第五次会議は，「漢語拼音方案」を採択した。3月に教育部は，拼音字母を教えるよう通知し，5月第三批簡化漢字が公布，そして59年7月15日，第四批簡化漢字が公布された。

1958年10月「漢語拼音報」[24] が北京で創刊され，59年3月20日付「人民日報」は，音標文字を利用して文盲一掃と共通語の普及に役立てよう，という文章を発表した。12月には山西省万栄県で，注音で文盲を一掃し共通語を普及させる現場会議が開かれた。全国共通語教学コンクールは，58年7月北京で，59年8月上海で開かれている。その後，青島・西安などで開かれた。

文字改革は，着実に進行し，64年3月，委員会と文化部，教育部の“連合通知”によって，簡体字の偏旁の用法を拡大することになり，5月には「簡化字総表」(2,238字) が発表され，続いて65年1月には印刷字体統一のための「印刷通用漢字字形表」(6,196字) も発表された。このようにして漢字字体の改革と統一は，ようやく軌道にのった感がある。

4．「方案」の公布と内容分析

「漢字簡化方案」は，三部分からなる。一部は漢字簡化第一表であり，230の簡体字が収められている。これらは55年5月1日より，北京と天津で40種の新聞・雑誌で，時期を区切って試験的に使用された[25]。

第二部は漢字簡化第二表で，285字が収められている。59年7月15日まで

---

b．共通語の発音をつづって共通語教育の有効な手段とする。

c．各少数民族が文字を制定し，改革する時の共通の基盤になる。

d．外国人が漢語を学ぶのを助け，そして同方案の制定は，国際的な文化交流を促す。

24) 上海市文字改革委員会の「汉語拼音小报」とならび，ローマ字つづりを普及させる新聞である。論文末尾に参考資料として転載する。

25) 周有光，前掲書，339ページ。'55．5．1試用分57字，8．15試用分84字，'56．1．1試用分126字，3回で合計261字である。そのうち第一表230字を含む。

時期を分けて施行され，残り28字は検討されることになった[26]。第三部は，漢字偏旁簡化表であり，54の簡化偏旁が収められている。

「方案」に出ている簡体字は，その来源と形体によって次のように分類される。周有光氏の分類をみてみよう[27]。

①来源による分類

A．古字

(a)古本字：部首（表音化）つまり意符が加わる前の原字，云，电，胡須

(b)古同字：以前に繁体字と並用されていた簡体字，礼，尔

(c)古通用字：古くは相互に通用していた字，后，才

B．俗字

最も古くはないが，大衆の間に長く流行していた伝統的な簡体字，体，声

C．草書体の楷書化

书，为，东

D．新字

(a)ある時期に通用した“解放字”，拥护

(b)最近の新造字，灭，丛

少数の最近の新造字を除いて，いずれも“約定俗成”（一般に使われ，初めて定まる）を基礎としており，その中でも伝統的な簡体字は大衆から最も熟知されている。

②形体による分類（三種の筆画簡化法）

A．省略

(a)片側を省略，录，号，云，丽

26）同上書，339ページ。'56．6．1施行分95字，'58．5．15施行分70字，'59．7．15施行分92字，合計257字。

27）同上書，339－340ページ。

(b)両側を省略，里（上と下），术（左と右），复（上と左），声（下と右）

(c)一角を省略，际（右上の角），阳（右下の角），垦（左上の角）

(d)内外を省略，开（外側），奋（中）

(e)その他の省略法，丰，汇，卤

これらの簡体字は，いずれも原字の省略によるもので，形体の改造をしていない。

B．改形

改造を加えたもの，繁体字の一部の形体か全部の形体を改変したもの。

(一)形声文字の改造

a．形旁（部首），つまり意符をかえる。刮（颳，同音代替）

b．声旁，つまり音符をかえる。洁

c．両旁，つまり音符，意符をかえる。惊

簡体形声字の音符は，必ずしも正確には表音できない。衬（方音形声字），铁（転音形声字）。毕，华 等は準形声字であり，この類に帰せる。

(二)会意文字の改造

体，灶，尘

(三)輪郭化と象徴化

a．全体について輪郭を残したもの

齐，尔

b．部分について輪郭を残したもの

变（上部），当（下部），报（左部），弥（右部を簡略化）

c．象徴符号　事実上，一種の輪郭化

丶　办，协

メ　区，赵

ヌ　汉，劝，对，邓

リ　师，归

ツ　学，誉，兴

d．重文（かさねがたの）符号

ミ　柬

ヌ　轰，摄

かさねがたの符号も一種の象徴符号である。輪郭化と象徴化の簡体字は，大部分が草書の楷書化からくる。

(四)その他の改造

C．代替

これは元からある筆画の簡単な字を利用して，一つあるいはいくつかの同音あるいは異音の繁体字に代えるものである。そのうちある簡体字は，なおそれ自体の原義を残している。たとえば，“几”の原義は茶几であり，同時に幾に代替する；あるものはそれ自体の原義をすでに失っている。たとえば“只”の原義は語已詞也，原義はすでに失われ，現在は祇，隻に代替する。

5．簡略化には弊害がある？

77年12月20日，新聞紙上で発表された「第二次漢字簡化方案（草案）」（以下二草と略す）によると，第一表の248字のうち，日本の当用漢字と同形のものは35字（14%）であり，厳密に言えば“同文同義”といえるのは，わずか11字（4%）[28]にすぎない。今日，漢字を使用する国は，わずかに中国と日本および韓国・シンガポールになっている。隣りの10億余の人々は，およそ一世紀にわたる改革運動の歴史の中から，1955年，77年と二度にわたって草案を発表し，漢字簡略化の大事業を提起した。

彼らは「世界共通の音標文字の方向」を「目指して，いま第二歩を踏みだしたのである。(日本人としては)この際“同文”から目覚めて」中国語を「外国語文として対処する契機としたい」[29]ものである。

漢字は「むつかしい」ことがよく欠点として言われる。学びにくい，覚え

28）旧漢字と新漢字が全く同形のもの：豫－予，櫻－桜，碎－砕，粹－粋，醉－酔，辯，辨－弁
同音代替字で新旧いずれの字形も日中共通のもの：蛋－旦，釘－丁，副－付，泰－太，舞－午，慰－尉

29）芝田稔「第二次漢字簡化方案」について，『日中文化交流』1978．2．1（No. 254)。

にくい，読みにくい，わかりにくい，書きにくい，使いにくい等と。つまり学習に困難をもたらし，応用に不便だということである。それ故に筆画を簡略化することは，次の点からその効果が推定できる[30]。

a．学習において多少の困難をへらす。

b．筆記において多少の時間を節約できる。

c．読書において多少の効率を高める。

総じて，筆画の簡略化は，学習にとってかなり利益があり，普段の筆記や読書にとって有利である。しかし一方では，一般の言語・文字の応用からみるとき，簡略化には長所があるが，長所は大きくないという人も現われている。「筆画の簡略化には長所はあるが，長所は大きくなく，利益があるのではなく，弊害がないのではない」[31] というのである。

ここには漢字の簡略化に対する一つの姿勢が表現されており，それはまたこの運動をこれ以上継続・発展させないとの意思表示でもあろう。

文字改革の運動には，確固とした指導があり，組織・計画・段どりがある。それはある個人の願望とか理想などではなく，大衆的な長期の運動の継続である。「漢字の整理と簡略化の仕事は，音標文字化実現の前の応用に便利なように，文字改革の根本的改革実現のための前奏」[32] 曲をかなでているのである。56年の第一次の「方案」はさまざまの意見[33]をうけて，修正されたものであった。そして77年の二草は，「文革」の影響を受けたにせよ，新たな展望をもたらすべきものであった。

中国の文字改革の今日的課題は，1958年の周報告で提起された三項目と基

30）周有光，前掲書，342ページ。

31）「光明日報」1978．6．16，周有光「漢字簡化問題的再認識」曰く：簡化筆画，……不是有利而無弊。

32）張世禄『漢字改革的理論和実践』，文字改革出版社，1957年，6ページ。

33）陶倫「関於第二次漢字簡化方案（草案）的幾個問題」，『中国語文』1978年1号，62ページ。

第一次草案は，「光明日報」と語文雑誌に発表され，各省，市に30万部印刷して発行された。主として文字学者，小中学の語文教師，労働組合及び部隊の文教工作者の間で意見を求めた。

本的には同じでありその延長線上にある，といえる：

㈠漢字の簡略化の問題。77年の第二次漢字簡化方案（草案）が保留となっている今，修正後の方案が正式に発表されるのが待たれる。先の周有光氏の意見は，恐らくその発表以後第三次，四次……と永遠に続けられることに対する懸念であろう，と理解する。第二次方案のあとになされることは，現代漢語常用漢字表，常用語表の制定と人名地名用字の確定などについて研究することが課題となっている。つまるところ，漢字の整理と研究の問題だといえよう。

㈡共通語の普及の問題。中国でいう普通話 pǔ tōng huà，この全国的な普及なしには四つの近代化もむつかしい。ある調査によると，わずかに50％の人が共通語をきくことができ話すことができるという。

新憲法に共通語の普及がうたわれたのは，全く驚きである。これほどまでに共通語普及の課題が，基本的重要性をもっていることを示している。任仲夷・広東省委第一書記は[34]，深圳でとりわけ共通語を使い，共通語で省のことばを統一するよう強調している。軍隊や経済戦線で異なる言語を使うようでは，その果すべき成果は望めない。

㈢漢語拼音字母の広範な普及の問題。77年の国連地名標準化会議で採択されたのをはじめ，82年に国際標準化組織（ＩＳＯ）は，文献作業の中で中国語をつづるのに漢語拼音を国際的標準とする決定をしている。

「シンガポール共和国では近年来華語（つまり普通話）の普及が成果をあげ，中国の簡体字を採用し，漢語拼音で人名をつづりまた華文に音をつけている。マレーシアとタイも漢語拼音と簡略化漢字の採用を前後して決めた」。[35]香港でも普通話の学習が進んでいる。

海外でこのような動きのみられることは，これらの課題が時宜にかなったものであるともいえよう。ある事柄を口で言う手段(普通話)，そして字で表わす用具（簡体字），さらに文盲を一掃し，児童の学習のために役立つ表音

34)「光明日報」'85．5．28。
35)『文字改革』84年５号，６ページ。

字母（拼音）は，切っても切れない深い関係にある重要な媒体である。

共通語はともかく，漢字と拼音については，日本語におけるのと同様なプロセスが考えられてよい。「漢字に拼音をはさむのは提唱に値する」。[36] その一例を示そう：

a．擬声語・感嘆詞からまず試験的にやる。

b．助詞のうち，構造助詞“的，地，得”などはdeで代表できる。動態助詞“着，了，過”はそれぞれzhe , le, guoを使える。

c．音訳地名，人名は元の字を使う。

d．科学術語名詞　例. cadmium鎘(ge)

e．漢字で書きにくい話しことば，方言，土語

f．めったに用いられない字。diānduó, tāotiè など。

こうした実験は，『文字改革』や「漢語拼音報」などで少しずつ実験されているが，一度に移行することは困難かもしれない。しかし一定の条件や方法が確定すれば，“言語文字の現代化”の方向に沿って前進するという原則のもとに，大胆に実験したらよいのではなかろうか。

84年3月，語言文字応用研究所が成立し[37]，漢字の整理，漢語拼音，言語情報処理，社会言語学，言語応用の各研究室が設置された。これは中国の文字改革が新たな黄金時代を迎える準備だともいえよう。

半世紀前，魯迅も漢字と拼音併用の提案をしている。漢字にローマ字つづりをはさむことは，たしかに大きな転換だといえる。しかしそのことは，日本における若者の漢字離れ現象と同様の現象を，将来中国において招くことになるかもしれない。だがそれは，予想される“世界の文字に共通する拼音化”への道でもある。そのことは，後世の人たちの決めることである。

36）『文字改革』85年2号，41ページ。
37）大修館『中国語』85年4月号，31ページ。

〈参考資料〉

Hànyǔ Pīnyīn Bào 汉语拼音报

中国文字改革委员会《汉语拼音报》编辑部编
1985年6月3日总第315期（每月3、18日出版）代号81—5

Hanyu Pinyin Bao　　Han

日本朋友de来信

编者de话：下面de信是我们de日本朋友德山大学副教授伊井健一郎先生访问中国后写de。字里行间充满le他对我国文字改革de关心和爱护，我们表示衷心de感谢。希望广大读者读后，看看您所在de地方有无类似情况，如有，请您及时给他们指出，帮助他们改正。让我们共同为祖国de语言文字规范化作出贡献。

编辑部各位先生：

去年8月，我有机会到中国去访问，进行教育交流。当时我发现了两三个问题：火车站，没有拼音。郑州应该注明Zhèngzhōu，西安不是Xīān，而该写成Xī'ān。喝啤酒时，我看到了商标：TSINGTAO BEER（英文），还是要提倡拼写QIngdāo pījiǔ（或BEER）。再有一次看到了繁体字。香港、台湾同胞还使用繁体字；但是大陆的中国人民都要学习规定的简体字。这是语言现代化的一个方向。将来还有可能出现一批简体字。在上海南京路能看到"YUO RE BAO DOU"这几个字。YUO RE非写成YOU'ER不可。幼儿是yòu'ér。推广普通话 推行正确的汉语拼音字母是必不可少的。预祝中国的语文现代化（文字改革）取得更大的成就。

日本德山大学副教授
伊井健一郎